

令和6年度 学校自己評価システムシート

日高市立高萩小学校

目指す学校像	みんなで創る 笑顔あふれる おらが地域の学校
重点目標	確かな学力の向上 豊かな心の育成 健やかな体の育成

年度目標		学校自己評価					学校運営協議会での評価		「学校運営協議会での評価」を受けて
評価項目	具体的方策	評価指標	評価基準	教職員の割合	保護者の割合	目標の達成状況	達成度 〔次年度への課題と改善策〕	学校運営協議会での評価	「次年度の課題と改善策」に係る変更点や追加事項等 (※変更点や追加事項等がない場合は空欄)
								実施日 令和7年1月24日	
						学校運営協議会の委員からの意見・要望・評価等			
組織運営の充実 小中一貫教育の視点	小中共通の学校教育目標（かしこく・やさしく・たくましく）の具現化	1 学校は、思いやりの心を育み、進んで学ぶ児童の育成に努めている。	A+B	100.0%	86.0%	・どちらの項目も教職員の評価は、A+B100%である。保護者評価と差があるが道徳教育・縦割り活動に力を入れているので、教職員の意識は高いが、児童保護者に伝わって浸透するよう工夫が必要である。 ・外遊び・体育については、体育主任を中心とした取り組みが評価されていると考えられる。引き続き工夫して取り組んでいく。	X ・来年度から高萩小と高萩中は、小中一貫校（施設分離型）となる。より一層の連携を進め、中1ギャップの解消等の問題に対応していく必要がある。 ・来年度の高萩小中学校学校課題研究発表を見据え、共通の取り組みを進め児童生徒の学習意欲を向上していく。 ・コロナ禍が明けてから2年がたち、体育関係・外遊び関係の形は、ほぼ以前の形に戻った。充実した取り組みが高評価につながっているが、働き方改革との兼ね合いもあり、引き続き精選・工夫を重ねていく。	・課題が明確になっている。良い。 ・子どもの心を育むということは、なかなか見えにくいものです。保護者は評価しづらい項目かもしれません。 ・新しい遊具が入った。大勢の子どもが利用しているのか？危険はないか？気になります。 ・校庭が狭くなった影響がないのか気になります。 ・元気よく外遊びを楽しみ、体力向上に努めているので結果が出ていと思われる。引き続き運動好きの子どもが増えることを望みます。 ・達成度Xは素晴らしい。保護者より教職員の評価が高いことは、取り組みがよりわかる立場であるので良い事である。	・行事の精選だけでなく、教育効果を落とさない工夫が必要である。職員室の若返りも進んでいるので、これまで以上に研修を強化する。
		2 学校は、外遊びを奨励し、体育授業を通して体力向上に取り組んでいる。	A+B	100.0%	98.6%				
			Aのみ	40.0%	38.6%				
基礎学力の定着	わかる授業の実践と学習習慣の定着	3 学校は、めあてとまとめが明確で分かりやすい授業に取り組んでいる。	A+B	95.8%	91.7%	・本項目は、教師の本分である。A評価の割合を見ても、教師は自分の授業のことであるので厳しくつける傾向がある。保護者には伝わりにくい授業に関するところであるが、児童を通して取り組みの成果はある程度伝わり評価していただいていると考えられる。 ・家庭学習については、保護者アンケートの意見から、もう少し量を出してほしい(計算・漢字)の意見もいただいた。しかし学びに向かう態度や思考力を伸ばすことを目指す学習指導要領下での家庭学習の在り方は、非常に難しい課題である。	X ・学校課題研究「萩っ子一人一人に確かな学力を身につけさせる学習指導法の研究」を通して子どもたちの学力を向上させていく。 ・授業参観の参加率を向上し学力向上の取り組みが保護者に伝わるようにする。 ・保護者の家庭学習に対する意識を変革していく必要性を感じている。繰り返し漢字を書きとったり、算数の計算を何度もやったりするというイメージを変えていき、思考力を向上するための自主的学習に取り組めるようにする。	・学習に対する学校の取り組みを保護者が高評価していることはとても良い。 ・家庭学習が人によって難易度や量が変わってしまうことはやむを得ないと思います。更なる学習効果が期待できます。 ・5・6年生は、中学校に向けた家庭学習の習慣化に向けた試みが必要に感じる。 ・タブレット利用について市教委と協力してしっかりとしたフィルタリング等の措置が必須である。 ・授業・家庭学習と、課題が明確でよい。 ・宿題を多くする必要は、高学年に限っては無いと考える。	・来年度は、学校課題研究の発表年である。この機会を生かし、家庭学習の在り方でもより良いものを模索していく。
		4 学校は、授業規律の定着や家庭学習の充実を通して、学習習慣を身につけさせている。	A+B	100.0%	87.6%				
			Aのみ	13.7%	21.8%				
保護者や地域との連携 コミュニティ・スクールの視点	みんなで創る笑顔あふれるおらが地域の学校（目指す学校像）の具現化	5 学校は、授業や行事等の様子について、各種たよりを通じて教育活動の情報提供に努めている。	A+B	92.6%	85.0%	・今年度学校は、各種たよりの電子化等を進め利便性を向上させたと考えている。しかし保護者側からは、紙面での配布希望等も少しではあるが挙がってきており、兼ね合いが難しい。 ・PTA・中学校・保護者・地域の連携は、教職員・保護者とも高い評価となった。PTA活動も時代の変化に合わせて取り組み・行事等の精選を行って負担軽減を図っていることも評価向上につながっている。	X ・アプリによる文書の電子的配布について好意的な意見もたくさんいただいている。これを継続していくことで電子的配布が意識の中でスタンダードになるよう丁寧に対応し移行していく。 ・本年度のPTA活動は、会長を中心に様々な改革を進めてきた。その姿勢が高い評価につながっている。この流れが停滞しないよう、PとTの連携をより一層進めていく。 ・地域学校協働本部との連携をより一層進める。	・電子化は時代の流れです。よくやってもらっていると思います。 ・「おらが地域の学校」としての伝統が定着しているように思います。 ・おたよりの電子化等、初めてのことが多いですが慣れてくれれば大丈夫だと思います。 ・地域学校協働本部の支援は足りていますか？学校の困りごととはどんなに伝えてほしい。 ・紙面配布希望はあると思うが、デジタル化を進め作業効率向上達成を優先すべき。 ・本年度も安全安心部や環境整備部の活動により児童の安全や環境整備が図られました。 ・連携が高評価になっていることは良い事である。 ・PTA活動無用論が叫ばれている今日であるが、保護者の協力は不可欠。活動の精選が必要か。	・PTA活動の在り方について、引き続き検討していくことが不可欠である。
		6 学校は、PTAや中学校、保護者・地域の方々と連携して、児童の育成に努めている。	A+B	96.3%	92.3%				
			Aのみ	55.1%	24.1%				
社会性・人間性の育成	よりよい人間関係の育成	7 学校は、たてわり遊び等の異年齢集団活動を行い、豊かな心の育成に努めている。	A+B	100.0%	95.7%	・たてわり活動(異年齢集団での活動)は、非認知能力の向上に効果的であると言われている。本項目評価が高いことは、高萩小学校教育の大きな強みであると言える。特に保護者のA評価が高い。質の高い取り組みを継続していく。 ・項目8についても高い評価となった。学校運営協議会を中心とした取り組みが保護者に評価されていることは、素晴らしい成果である。	X ・運動会や縦割り遊びが充実し異年齢集団の交流を通して豊かな社会性を育成出来ている。小中一貫校になることを機に、中学校との連携も進めたい。無言での教室移動や清掃も徹底し、落ち着いた学習環境を整えていく。 ・地域学校協働本部(学習部)との活動を拡充することが出来ていない現状がある。授業時数の兼ね合いや学校行事等の精選を進める必要性もあり、よりよい在り方を模索していく。	・異年齢集団の活動は、兄弟が少なくなっている今必要不可欠である。生きる力の育成につながっている。 ・地域学校協働本部の活用について言及されていて地域との交流が大切であると考えさせられる。 ・少子化の影響が少なからず反映されている気がします。 ・コミュニティスクール・地域の関与が高評価を受けていることは素晴らしい。 ・日高塾の参加率が高く高い意欲が感じられる。 ・本校の特色であるたてわり活動が高評価であることは素晴らしい。 ・行事を減らせよという単純なことではないと思う。 ・社会性が育つ良い学校という評価だと思います。	
		8 学校は、授業での地域学校協働本部の活用に向け、整備・充実を図る努力をしている。	A+B	95.7%	95.2%				
			Aのみ	68.9%	26.2%				
安心安全な教育環境	安心安全な環境づくりといじめ問題への対応	9 学校は、児童を安心安全に通わせることができる学校づくりに努めている。	A+B	100.0%	85.5%	・萩っ子見守り隊は、県下でも誇れるもので、数年前にも県教委で紹介されるほどである。その活動が功を奏して子どもの安全が確保されている。今年度校内での大きな事故・けがは、発生ゼロ。PTAによる春秋の地域パトロールが、児童の安全確保に大きく寄与している。 ・いじめに関しては、昨年度A+B評価79.2%から改善がみられる。教職員は、日々いじめに対して感度高く対応している中で「努めている」という自負につながっているが、保護者の実感との差を埋めていく工夫が必要である。	X ・地域の宝である「萩っ子見守り隊」との連携を大切に、児童の安全をしっかりと担保していく。見守り隊自身もメンバーの高齢化等の課題を抱えているので、学校運営協議会・学校・自治体等とも連携しながら課題を解決していく。 ・数値の改善を前向きにとらえ、今やっているいじめの未然防止、早期発見・早期対応を強化していく。また、保護者・地域・関係諸機関との協力連携体制を充実させる。 ・相談員・スクールカウンセラーとの情報交換・連携を進める。また、保護者との相談体制も充実する。	・「保護者との実感の差」を埋めていくことを課題としていることは評価できます。来年度が楽しみです。 ・大きな事故怪我がないことがとにかくよかった。見守り隊の方々に感謝です。 ・いじめ問題は毎年同じ。一生懸命やっている先生と保護者のもっと見てほしいという思いの差である。 ・暑い日も寒い日も休まず見守っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。 ・昨年より大きく改善している。素晴らしい。 ・早期に発見し大きな問題に発展させないことが何より大切で す。 ・放課後の電話対応を変えたことの影響はありますか？ ・見守り隊の高齢化が心配である。 ・不登校の増加も心配である。	
		10 学校は、いじめの早期発見・早期対応に努めている。	A+B	100.0%	85.6%				
			Aのみ	46.2%	21.5%				